

# 紙智子、いわぶち友参議院議員が日本製紙 工場撤退問題で、経産省から聞き取り調査

先月14日、日本製紙の工場撤退問題で釧路市での調査を行った紙智子、いわぶち友の両参議院議員が、1月29日（金）経産省の担当者である製造産業局素材産業課課長補佐（紙・パルプ担当）から、経産省として把握している事実経過、経産省として検討している内容等について聞き取りを行いました。その内容が、いわぶち友参議院議室からメールで伝えられましたので紹介します。

経産省担当者からの説明を聞き、紙議員、いわぶち議員からは、現地調査で寄せられた要望に基づき、釧路地域の経済、社会全体に影響を与える大きな問題として経産省としての対応を求めました。

## 【担当者の主な発言】

● 経産省の担当部局としても、11月15日の日本製紙のプレスリリースで釧路工場撤退について初めて知って驚いた。その後、市長、商工会議所、地元の署名などの要望を受け、今は何が残せるか地元と協議を行うことになっていると把握している。

● 紙業界のなかでも、日本製紙釧路工場で扱っている新聞、一般紙の需要は大きく落ち込んでいる。会社では、この10年ほど何かしら残したい（事業転換等）と考え、発電事業の収益で製紙部門の赤字を補填してきたが、コロナの影響で更に製紙部門が厳しくなり、撤退となったと聞いている。

● 梶山大臣が釧路市長、商工会議所会頭に対して述べた「経産省と

して支援出来る事はしつかりやる」とは、撤退時期以外の事。9月撤退を延ばす企業の余裕は無いとの事。企業の社会的責任はあるが、一企業の判断に口を出すのは難しい。大臣の発言は「（撤退時期以外の）他の要望が上がってくれば」との趣旨。

## 日本製紙の最近の生産設備縮小の動き

2019年3-6月	富士工場（3機）	富士工場の洋紙事業の撤退
2019年7月	釧路工場（1機）	
2020年1月	勇払工場（4機）	勇払工場の洋紙事業の撤退
2021年8月（予定）	釧路工場（2機）	釧路工場の紙・パルプ事業の撤退

## 日本製紙の直近の業績

（連結/単位:億円）

	2020年3月期 上期実績	2021年3月期 上期実績	前年同期 増減率
売上高	5,249	4,674	▲10.9%
営業利益	152	40	▲73.9%
経常利益	154	▲21	赤字転落
当期純利益	96	▲80	赤字転落

経産省はリーマンショックなどもあり、全国で2000年に1904万tあった洋紙生産が2019年には1350万tに減少したと説明しています。

●（釧路工場撤退の再考は難しいとなると、撤退時期の先延ばし、地域経済、社会を維持するためにとするの）は、企業と地元自治体、商工会議所、北海道経済産業局も入って検討することになる。

● 左記の内容については、経産省担当者がその場で回答出来ず、確認したうえで回答をもらうことにしています。

① 発電事業乗り出した時に、製紙分野は先行き厳しいと思っていたか。  
② 事業転換を検討したが厳しいと判断した時期はいつか。  
③ 市とのやり取りで、釧路工場は閉めるしかないと話合った時期。



日本製紙釧路工場OB会長の藤原厚さん（中央）や工場前の飲食店のご主人（左端）からお話を聞く国会調査団

以上がいわぶち友室からのメールです。また経産省から寄せられた説明資料も送っていただきました。

経産省が日本製紙に直接工場撤退をやるよう求めるはずもありませんが、紙・いわぶち両参議院議員が、現地で寄せられた声を直接監督官庁である経産省の担当者に伝え、会社が工場撤退を検討し始めた時期や釧路市との対応などについて、さらなる調査を指示した点は次につながるものです。

厳しい局面が続きますが、日本共産党は国会での戦いとも結んで、工場存続のために力を尽くします。